

(「研究する」 2023年4月)

「私が研究する理由(1)～楽しさとともに～」

はじめまして。愛知県みよし市立三好中学校の村瀬悟と申します。今回から4回のコラムを担当させていただきます。宜しくお願いします。専門分野は、特別活動(生徒会活動、学校行事)とキャリア教育です。特に、特別活動(生徒会)経験とキャリア形成との関連について研究しています。

私の研究との出会いは、大学4年生の時でした。もう20年以上前のことですが…。中学校の技術(科)教員養成課程で所属した木材加工研究室の橋田紘洋先生(愛知教育大学)のもと、卒業論文を作成した時のことでした。校舎建築材料の違いによる教育環境形成への影響についての研究の一つとして、児童の教室イメージと教員の蓄積的疲労との関わりについてデータ分析を行っていたのですが、表計算ソフトの使い方から統計分析の方法まで何も知らない自分が、全国200校の小学校から集まったアンケート結果の束を入力し続ける日々だったことを覚えています。

こうして入力した膨大なデータから統計処理を施し、校舎建築材料の違いが子どもの疲労や教室へのイメージ、保健室利用状況にどのように具体的に関わっているのか、どの視点から捉えて研究の活路を見出すかを試行錯誤し、ダメ元(口語的ですが…)で教授の研究室に相談に伺うことを繰り返していました。

ほとんどの場合、私の視点は既に検討されたもので、私の知見の浅はかさを実感する程度の内容だったのですが、極まれにこれまでにない視点のものがあり、教授が驚かされていたことがありました。その時、橋田先生が「村瀬くん、これはいいねえ」と、宝物を見つけた少年のように目をキラキラさせながら笑顔で語っていた表情をしていました。

まもなく定年退職を迎え、キャリアも実績も豊富で専門分野を熟知している方が、こうして新しいものを見つけ、純粹に喜んでいる姿を見て、憧れとともに“研究”をやってみたい、と強く感じ、大学院への道を選ぶことにしました。

その後の大学院での2年間は、私の研究に対する価値観の基礎となっています。「研究とは、世界中の誰も知らない、未知の世界を切り拓く活動である」…研究者の皆さんからするとなんとも曖昧で稚拙かもしれませんが、研究を通して誰も見たこともない世界を切り拓くことができる、これは本当に素晴らしく魅力的なことだと思います。

私は現在中学校教員ですが、研究の魅力を今も忘れてはいません。今行っている教育活動の真価を見出すこと、そこから新たな教育活動を創造すること、修士論文では技術分野でしたが、現在では特別活動・キャリア教育について実践から研究活動を進めています。

日々の教員としての仕事+研究活動は膨大な時間と労力がかかりますが、“好きだから楽しい”からこそ、充実しています。

今回は自身の研究観についてお話しさせていただきました。次回は教育現場における研究の必要性についてお伝えしたいと思います。

(愛知県みよし市立三好中学校 村瀬悟)